

## 9.子ども食堂からわかる現代社会の親子関係の重要性：普段の生活に欠けるもの

杉岡采音

### 1.問題関心

近年、子ども食堂が増えて世の中にも浸透しつつある。現在では愛知県内で100以上にもなっている。そして、孤児や経済的に困難な家庭の子どもにとって、子ども食堂はつながりの場として第二のホームの役割を果たしている。しかし、子どもの孤立というのはいまだに現状として残っている。また、今日の子ども食堂は食事をまともにとれない家庭や家で、一人で食べている子どもの救いの場として立ち上がったが、今日では、地域のつながりや周りとのつながりを持つための場として広がっている。このように子ども食堂は、運営者の気持ちや思いとともに利用者の声を反映しながら様々な変化を遂げている。

そこで本稿では、子ども食堂の新たな意義として、普段、親子の関わりが少ない家庭やより親子でのつながりを持つ機会としての場になればいいのではないかと提唱する。子ども食堂では、母子父子家庭や経済的に困難な家庭では日常的には親は忙しくて子どものことに深くは目を向けてられないこともあるだろう。その結果、親子での時間というのは削られているのではないかと考える。そこで気軽に行ける子ども食堂で色々な経験ができれば親子の関わりをより密に築くことができ、親にとって新たな家庭の気づきも発見できるかもしれない。また、先行研究では、子どもに色々な経験や体験をさせることは子どもの成長に大きな影響をもたらすと言われている。また、安梅勅江氏の論文によると、絆を育む力は今後の生活の活力やエネルギーを与えるものとされている。

そのためにまず、子ども食堂の利用者の親子関係を分析する。そして、問題や家庭の現状を導き出し、現代の子ども食堂に求められている事を考え、改善点を導いていく。

本調査では2019年、1年間を通して行った子ども食堂の経験とアンケートをもとに利用者の声を元に親子関係を分析する。

### 2.調査方法

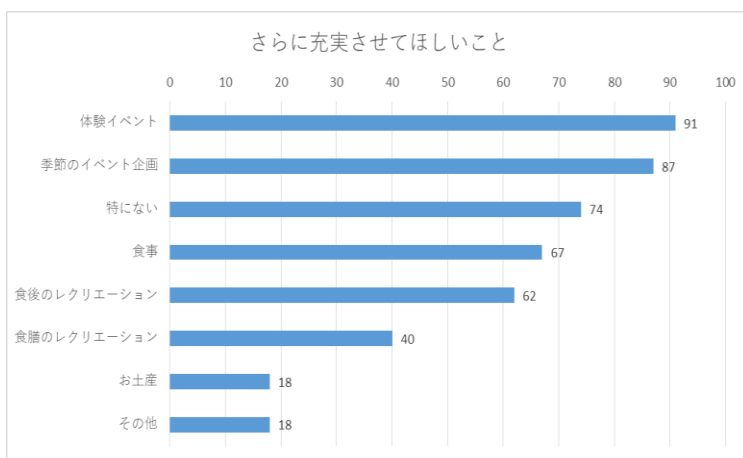
調査対象は愛知県内及び名古屋市内の子ども食堂を利用する大人である。以下の項目を利用して集計を取った。

- ・子ども食堂で現在行っていることで、今後さらに充実させてほしいことについて  
(季節のイベント企画、体験イベント)
- ・あなたとお子さんの普段の生活について  
お子さんと遊ぶ(趣味・スポーツ・ゲームなど)機会  
お子さんに知識や技能(勉強や料理など)を教える機会  
お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問しあう頻度  
お父さん(または父親代わりとなる人)の育児に参加する頻度  
お子さんが両親(または母親、父親代わりとなる人)と一緒に食卓を囲んで食べる機会

### 3.調査結果

今回の調査結果をもとに単純集計を作成し、子ども食堂の現状を述べる。

(図1) 現在子ども食堂で行っていることで、今後さらに充実させてほしいことについて



このグラフから、体験イベントと回答した人が91人(29.5%)、季節のイベント企画と回答した人が87人(28.2%)と大半を占めた。しかし、特にないと回答した人が74人(24.0%)いることから、現状に満足している人も多い。

体験イベントそれに続き季節のイベント企画を充実させてほしい人が多いことがわかる。3番目には特にないと現状に満足している利用者も多い中、日常ではできないような体験や季節のイベントに期待を込めている人が多いことがわかる。

このことから、イベントに対して期待を持っている人についてもっと詳しく集計することが重要であると考えた。

●仮説

日常や普段の生活で、親子での関わる機会が少ない人ほど子ども食堂にレクリエーション体験を充実させてほしいと考えている人が多いのではないか。

(表1) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)

×お子さんとの普段の生活について(お子さんと遊ぶ機会)

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)	あなたとお子さんとのふだんの生活についてお子さんと遊ぶ (趣味・スポーツ・ゲームなど) 機会						合計
		ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	めったにない	
回答なし	度数	24	40	56	35	20	175
		13.70%	22.90%	32.00%	20.00%	11.40%	100.00%
回答あり	度数	16	13	16	16	10	71
		22.50%	18.30%	22.50%	22.50%	14.10%	100.00%
合計	度数	40	53	72	51	30	246
		16.30%	21.50%	29.30%	20.70%	12.20%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂でさらに充実させてほしいこと(季節のイベント企画)と答えた人の中で、ほぼ毎日お子さんと遊ぶ機会があると答えている人は、71人中23人で、週に3~4回と答えた人は16人という結果になり、普段の生活からお子さんと遊ぶ機会が多い人ほど、季節のイベント企画を充実させてほしいと考えていることがわかる。

(表2) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)

×お子さんとの普段の生活について(お子さんと遊ぶ機会)

子ども食堂で今後さらに充実 させてほしいこと (体験イベント)	あなたとお子さんとのふだんの生活についてお子さんと遊ぶ (趣味・スポーツ・ゲームなど) 機会						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	めったにない
回答なし	度数	46	42	52	17	13	170
		27.10%	24.70%	30.60%	10.00%	7.60%	100.00%
回答あり	度数	28	16	21	9	4	78
		35.90%	20.50%	26.90%	11.50%	5.10%	100.00%
合計	度数	74	58	73	26	17	248
		29.80%	23.40%	29.40%	10.50%	6.90%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂でさらに充実させてほしいこと (体験イベント) と答えた人の中で、ほぼ毎日お子さんと遊ぶ機会があると答えている人は、78人中28人で、次に週に1~2回と答えている人が多く21人という結果になり、普段から週1以上お子さんと遊ぶ機会がある人は、体験イベントを充実させてほしいと考えていることがわかる。

(表3) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)

×お子さんに知識や技能 (勉強や料理など) を教える機会

子ども食堂で今後さらに充実さ せてほしいこと (季節のイベント企画)	お子さんに知識や技能 (勉強や料理など) を教える機会						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	めったにない
回答なし	度数	24	40	56	35	20	175
		13.70%	22.90%	32.00%	20.00%	11.40%	100.00%
回答あり	度数	16	13	16	16	10	71
		22.50%	18.30%	22.50%	22.50%	14.10%	100.00%
合計	度数	40	53	72	51	30	246
		16.30%	21.50%	29.30%	20.70%	12.20%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画) と答えた人の中で、ほぼ毎日お子さんに知識や技能を教える機会があると答えた人は16人、週に3~4回と答えた人が13人、週に1~2回と答えた人が16人、月に1~3回と答えた人が16人となり、お子さんに知識や技能を教える機会の頻度関係なく季節のイベント企画を充実させてほしいと考えていることがわかる。

(表4) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)

×お子さんに知識や技能 (勉強や料理など) を教える機会

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)	お子さんに知識や技能 (勉強や料理など) を教える機会						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	めったにない
回答なし	度数	22	41	50	32	23	168
		13.10%	24.40%	29.80%	19.00%	13.70%	100.00%
回答あり	度数	18	12	22	19	7	78
		23.10%	15.40%	28.20%	24.40%	9.00%	100.00%
合計	度数	40	53	72	51	30	246
		16.30%	21.50%	29.30%	20.70%	12.20%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント) と答えた人の中で週に1~2回と答えた人が22人、月に1~3回と答えた人が19人となり、普段お子さんに知識や技能 (勉強や料理など) を教える機会が低い人が体験イベントを充実させてほしいと考えている人が多いことがわかる。

(表5) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)

×お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問しあう頻度

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)	お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問しあう頻度						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	めったにない
回答なし	度数	13	15	45	56	45	174
		7.50%	8.60%	25.90%	32.20%	25.90%	100.00%
回答あり	度数	1	8	10	33	19	71
		1.40%	11.30%	14.10%	46.50%	26.80%	100.00%
合計	度数	14	23	55	89	64	245
		5.70%	9.40%	22.40%	36.30%	26.10%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画) と答えた人の中で、月に1~3回と答えた人が33人で、次にめったにないと答えた人が19人と多く、普段お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問しあう頻度が低い人ほど子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画) を充実させてほしいと考えているとわかる。

(表6) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)

×お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問しあう頻度

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)	お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問しあう頻度						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	
回答なし	度数	11	18	34	56	49	168
		6.50%	10.70%	20.20%	33.30%	29.20%	100.00%
回答あり	度数	3	5	21	33	15	77
		3.90%	6.50%	27.30%	42.90%	19.50%	100.00%
合計	度数	14	23	55	89	64	245
		5.70%	9.40%	22.40%	36.30%	26.10%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント) と答えた人の中で、月に1~3回と答えた人が33人、週に1~2回と答えた人が21人となり、普段お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問しあう頻度が低い人が、充実させてほしいと考えている傾向にある。

(表7) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)

×お父さん (または父親代わりとなる人) の育児に参加する頻度

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)	お父さん (または父親代わりとなる人) の育児に参加する頻度						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	
回答なし	度数	45	26	50	15	35	171
		26.30%	15.20%	29.20%	8.80%	20.50%	100.00%
回答あり	度数	21	7	18	13	9	68
		30.90%	10.30%	26.50%	19.10%	13.20%	100.00%
合計	度数	66	33	68	28	44	239
		27.60%	13.80%	28.50%	11.70%	18.40%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画) と答えた人の中で、ほぼ毎日と答えた人が21人、週に1~2回と答えた人が18人となり、お父さん (または父親代わりとなる人) の育児に参加する頻度が高い人が充実させてほしいと考えている傾向にある。

(表 8) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)

×お父さん (または父親代わりとなる人) の育児に参加する頻度

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)	お父さん (または父親代わりとなる人) の育児に参加する頻度						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	
回答なし	度数	39	24	51	16	33	163
		23.90%	14.70%	31.30%	9.80%	20.20%	100.00%
回答あり	度数	27	9	17	12	11	76
		35.50%	11.80%	22.40%	15.80%	14.50%	100.00%
合計	度数	66	33	68	28	44	239
		27.60%	13.80%	28.50%	11.70%	18.40%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント) と答えた人の中で、ほぼ毎日と答えた人が 27 人、週に 1~2 回と答えた人が 17 人となり、お父さん (または父親代わりとなる人) の育児に参加する頻度が高い人が、充実させてほしいと考えている傾向にある。

(表 9) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)

×お子さんが両親 (または母親、父親代わりとなる人) と一緒に食卓を囲んで食べる機会

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画)	お子さんが両親 (または母親、父親代わりとなる人) と一緒に食卓を囲んで食べる機会						合計
			ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回	
回答なし	度数	91	30	30	8	14	173
		52.60%	17.30%	17.30%	4.60%	8.10%	100.00%
回答あり	度数	42	6	11	5	5	69
		60.90%	8.70%	15.90%	7.20%	7.20%	100.00%
合計	度数	133	36	41	13	19	242
		55.00%	14.90%	16.90%	5.40%	7.90%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (季節のイベント企画) と答えた人の中で、ほぼ毎日と答えた人が 42 人となり、普段からお子さんが両親 (または母親、父親代わりとなる人) と一緒に食卓を囲んで食べる機会が多い人が、季節のイベント企画を重要視していることがわかる。

(表 10) 子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)

×お子さんが両親 (または母親、父親代わりとなる人) と一緒に食卓を囲んで食べる機会

子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント)	お子さんが両親 (または母親、父親代わりとなる人) と一緒に食卓を囲んで食べる機会						合計	
	回答なし	度数	ほぼ毎日	週に3~4回	週に1~2回	月に1~3回		めったにない
			81	29	26	10	19	165
			49.10%	17.60%	15.80%	6.10%	11.50%	100.00%
	回答あり	度数	52	7	15	3	0	77
			67.50%	9.10%	19.50%	3.90%	0.00%	100.00%
合計		度数	133	36	41	13	19	242
			55.00%	14.90%	16.90%	5.40%	7.90%	100.00%

このクロス集計から、子ども食堂で今後さらに充実させてほしいこと (体験イベント) と答えた人の中で、ほぼ毎日と答えた人が 52 人となり、お子さんが両親 (または母親、父親代わりとなる人) と一緒に食卓を囲んで食べる機会が多い人が体験イベントを重要視していることがわかる。

#### ●結果

日常や普段の生活で、親子での関わる機会が少ない人ほど子ども食堂にレクリエーション体験を充実させてほしいと考えている人が多いのではないかと仮説をしたが、普段からお子さんと遊ぶ機会が多い人ほど子ども食堂に対するレクリエーションを充実させてほしいと考えていることがわかった。このことから、普段から親子の関わりを持っている家庭でも、より深く関わる機会が必要だと考えている。普段の親子の関わりで多くの気づきがあり、また日々色々な発見があると知っているため、様々な経験の重要性を理解していると考察する。唯一普段知識や技能の勉強面を教える頻度だけは、頻度関係なくレクリエーションを充実させてほしいと多く考えていることから、多くの親は、勉強はできていないと今後に関わり、将来的に学校でも困るから、大事であると考えている人が多いのではないかと考察する。それ以外の親子の関わりは、別になくても困らないし、いらないと考えている人が多いのではないかと、また、普段の親子の関わりが少ない家庭は、自分たちが普段親子の関わりを持つ機会が少ないとも気づいてない可能性もある。そのため、子ども食堂にレクリエーションを充実させてほしいという結果にならないのではないかと考察する。親子の関わりが少ない人ほど成長期の遊び経験は、他の人と交流する体験、継続する経験、手先の器用さ、頭を使う経験、新たな知的好奇心など学びを得られると理解しておらず、知らない人も多いのではないかと考察する。そのような家庭のためにも、レクリエーション体験を充実させ、レクリエーションや遊びの重要性を理解してもらい、今後の親子関係を見直すきっかけにしてほしいと考える。次の章では、実際の子ども食堂で行われていて、良かったと考えるレクリエーション体験について述べていく。

#### 4.実際の現場で行われている体験やレクリエーション活動

##### ●折り紙

折り紙は多くの世代が楽しめ比較的男女関係なく楽しむことができる。手先の器用さを発達させることもでき、難しい折り方があったら、親子で協力しながら、子ども食堂で折り紙を教えるスタッフ側との交流もできコミュニケーションが取りやすく、簡単な遊びで良いと考える。また、折り紙なら家庭でも持ち帰ってでき、紙があればいつでもできるので、子ども食堂以外の家庭での親子のつながりを持つきっかけとしても最適であると考え。

##### ●射的、輪投げ

普段、子ども食堂へ寄付を行っている企業で射的や輪投げの用具を用意してくださっていて、子どもたちはあまりできない経験に楽しそうに遊んでいた。そのような用具は普段用意するのは大変だが、協力してくださる企業のおかげで行うことができる。

特に、男の子は射的をカッコいい物として目をきらきらさせていたように見えた。ゲーム感覚で頭を使いながら、体も使って行う遊びとして最適だと考える。

##### ●(季節の体験) お月見団子作り

ボランティアが餅までつくり3色の餅に色をつけて、その後は、子どもたち自身に好きな形や大きさに形成してもらって、茹でて食べていた。女の子だけでなく男の子も粘土感覚で自分たちの好きなように形を作っていた。結果的に自分が作ったものを食べるという経験により食に対するありがたみや形を形成するという点において感謝の念や創造力が育まれるのではないかと考える。

##### ●(季節の体験) ケーキ作り

スポンジケーキをあらかじめ用意してあり、それに好きなようにクリームをつけ、果物を配置した。これは自分も手伝いながら行ったが、女の子は「ここに置いたらバナナ多くなっちゃうかな、クリーム使いすぎたらこの後の分足りなくなっちゃうかも」など自分で後のことを考えたりして、装飾していた。私自身手伝いながら、「お姉さん上手！ここに果物置いて！」などケーキを共同して行ったことにより交流も楽しめたので、親子で行っても会話も増え、親子のかかわりをもつきっかけになり良い経験であると考え。

##### ●手品、バルーンアート

これは、できる人が限られているため子どもにとって好奇心がくすぐられると考える。難しい手品や難しいバルーンアートが行われると子どもはどうなっているのだろう？なんてこうなっているのだろう？など子どもが多くの疑問が増え、頭が活性化するのに最適だと考える。

#### 5.結論・おわりに

本稿では、今回のアンケート結果をもとに子ども食堂に来ている親子の日常的な関わりを考察した。その結果、日常的に関わりを持っている親子はレクリエーションの重要性を気づき子ども食堂に反映してほしいと考えている人、普段の親子の関わりが少ないと気づかずレクリエーションの重要性に気づいていない人と二手に分かれているのではないかと考察した。自分自身、ボランティアのスタッフとしても初めての経験や子どもと関わることで、こういうことに子どもは関心もつのか、子どもと接するときにはどういう点に気をつけるべきなのかなど考えさせられることもある。子ども食堂は普段とは違った視点で子どもを



見る場であると考え。また、普段と違った環境にいる子どもに与える影響はとても大きく、その子のもつ秘めた能力や普段では気づくことのできなかつた新たな一面、また、今後親として自身の子どもに与えるべきことはないかなど親子共々成長することができる場でもあると考える。そのために子ども食堂は家庭をより良い環境にするために親子の関わりを見つめ直すきっかけになる必要があると考える。また、成長期の親子でのコミュニケーションというのは子どもの将来にも大きな影響を与えると考える。

今後の課題として、親子の関わりをより知るために親子での日常を知るための子どもの年齢別男女別などによるそれぞれの親子関係の現状を把握するためのアンケートを作りその結果をもとに、より具体的な親子のつながりについて把握して、それぞれの親子関係や家庭環境に合ったレクリエーションを導き出すことができると良いと考える。子ども食堂だけでなく今後の親子のコミュニケーションに必要なことを考え、より親子の将来に寄り添ったレクリエーションを考えていけたらいいのではないかと考える。

#### 【参考文献・資料】

- ・国際発達ケア：エンパワメント研究室 <http://plaza.umin.ac.jp/~empower/anme/>
- ・安梅勅江「絆を育む力<絆育力>をつむぐーエンパワメント科学のすすめー」
- ・安梅勅江「コミュニティ・エンパワメントー当事者主体のシステムづくりー」（第98回日本小児精神神経学会 特別公演）